

2011年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施結果について —産学連携プログラム科目に対する学生の評価—

Student's evaluations to the subjects of Industry-University collaboration

1. 受講した学生による評価のアンケート調査の目的、方法

流通経済大学流通情報学部では、企業等の一線で働く方に講師を依頼し、複数の「実践講座、寄付講座」を開講している。2011年度の開講状況については、物流問題研究No57に掲載したとおりである。企業講師による産学連携プログラム科目の内容の適切性・有効性を実証的に検証するため、学生による授業評価を毎年実施しており、本稿は2011年度の結果について、報告するものである。なお、2010年度の学生による授業評価結果は物流問題研究No56に掲載したとおりである。

○アンケート調査方法・調査対象・回収数

- ・自記式調査票によるアンケート調査（無記名）
- ・産学連携プログラム科目である「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」、「日本通運寄付講座」、「全国通運連盟寄付講座」を2011年度に受講した学生
- ・アンケート回収数 289名

2. アンケート回答者の特性

アンケートは、それぞれの科目の開講の最終日に実施した。「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実

践講座」、「情報システム実践講座」、「日本通運寄付講座」は、いずれも50名強の回答者となっている。回答者数は出席している学生数とほぼ同じであり、学生に周知されてきたと考えられる。2年生が24.4%、3年生が59.5%、4年生が15.8%、日本人が66.4%、留学生が33.6%となっている。

「全国通運連盟寄付講座」は21名と、若干少なくなっている。半期だけの科目は、履修しにくいという学生の意見が多いことから、2011年度より、同じ時間帯で、春学期は「国際物流実践講座」、秋学期は「全国通運連盟寄付講座」を開講している。さらに配当学年も、現在は3年生以上であるが、2013年度より2年生以上に変更する予定であり、受講しやすいようにする。

最も興味を持っている分野は「物流」が40.3%、次いで「商業流通や経営」が30.9%となっており、日本人、留学生とも同じ傾向である。将来就職したい業種は、「情報・通信業」（49.0%）が最も多い。続いて、「倉庫・運輸関連業」、「卸売業」、「小売業」となっている。「陸運業」は28.1%、「海運業」は19.1%、「空運業」は21.9%となっており、物流系についても、関心が高いといえる。なお、日本人は「情報・通信業」が最も多く、続いて「卸売業」、「倉庫・運輸関連業」となっているのに対して、留学生は「情報・通信業」、

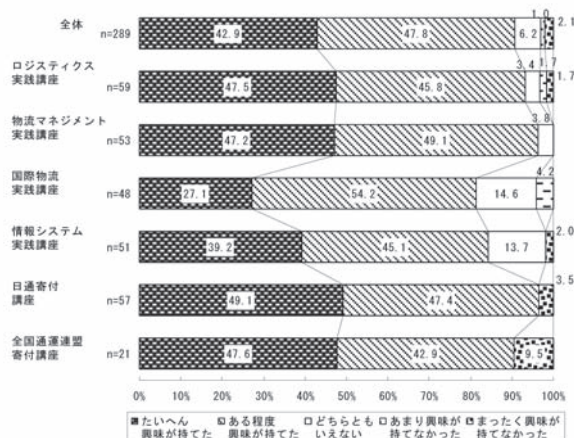
「倉庫・運輸関連業」が最も多く、「海運業」、「小売業」と続いている。

3. 産学連携プログラム科目に対する評価

3-1 産学連携プログラム科目に対する全体評価、満足度

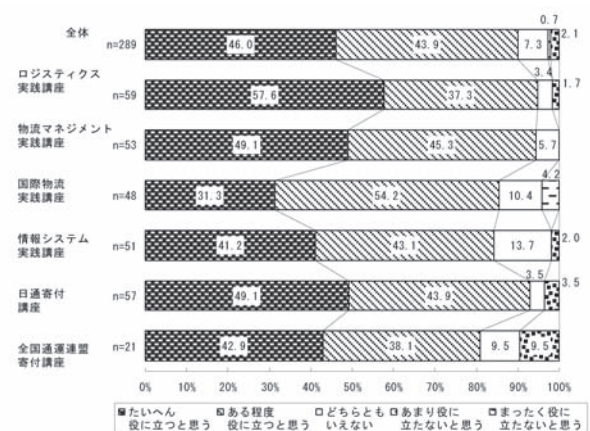
産学連携プログラム科目での実際の企業の事例紹介については、約9割の学生が「興味を持てた」と回答している。「たいへん興味を持てた」というのは、42.9%となっており、昨年度（38.8%）より多くなっている。企業講師の講義内容は、事例を含めたものであることから、より具体的であり、わかりやすく興味を持てたという回答が多い。科目別では、「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」、「日本通運寄付講座」、「全国通運連盟寄付講座」では、「たいへん興味を持てた」というのがいずれも5割弱となっており、多くなっている。学生の学年によっての差異は、大きくない。早い段階から、受講するのも意味があると考えられる。また、留学生については、「たいへん興味を持てた」という比率が特に高くなっており、日本の企業事例を直接学ぶことに対して、関心が高いといえる。

図表-1 実際の企業の事例紹介について



授業内容が他の分野や将来社会に出た時に役立つかということについては、役に立つと思う受講生が約9割となっている。「たいへん役に立つと思う」が46.0%となっている。学年別には大きな差異がみられないが、日本人・留学生別には、留学生は「たいへん役に立つと思う」が53.6%と多くなっている。

図表-2 授業内容が他の分野や将来社会に出た時に役立つか

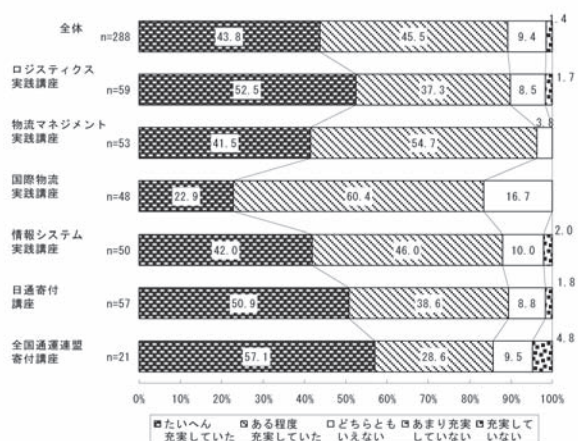


授業内容の充実度については、89.3%の学生が充実していたと回答している。科目別にみても、すべての科目において、8割以上の学生が充実していたと回答している。特に「全国通運連盟寄付講座」、「ロジスティクス実践講座」、「日本通運寄付講座」では、「たいへん充実していた」という回答が、5割を超えている。学年別には大きな差異は見られない。留学生はほぼ全員が充実していたと回答している。

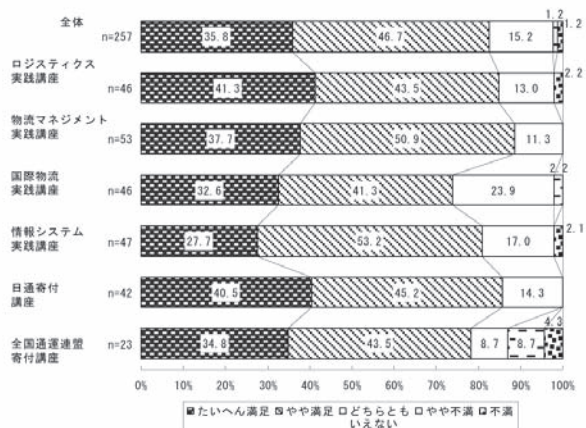
産学連携プログラム科目に対する満足度は、全体では満足が82.5%となっており、昨年度の83.0%と同様、高い結果となっている。科目別にみても、いずれも満足度が高い結果となっている。「たいへん満足」も3割を超えている科目が多くなっているが、「情報システム実践講座」については27.7%と、他の科

目に比べると若干低い傾向にある。学年別には、「たいへん満足」が2年生は25.5%であったのが、3年生は36.2%、4年生は42.1%と高くなる傾向がみられる。また、留学生で特に「満足」という回答が多くなっている。

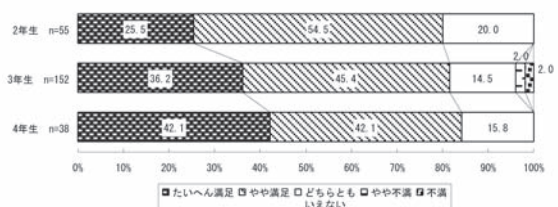
図表-3 授業内容の充実度



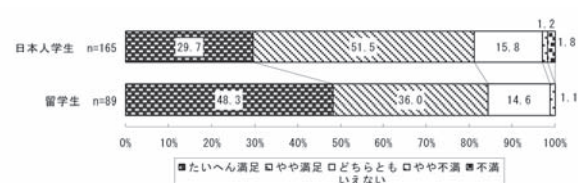
図表-4 満足度



図表-5 学年別満足度



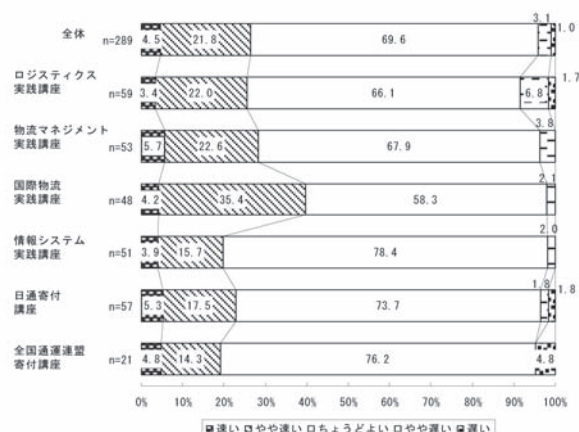
図表-6 日本人・留学生別満足度



3-2 産学連携プログラム科目の進め方等に対する評価

授業の進み具合について、全体では「ちょうどよい」が69.6%と、最も多くなっている。いずれの科目も、約6割が「ちょうどよい」としている。ただし「速い」は4.5%、「やや速い」21.8%という回答もある。「国際物流実践講座」で、「速い」、「やや速い」という回答が比較的多くなっている。また、留学生から、「やや速い」という回答が34.0%と多くなっている。

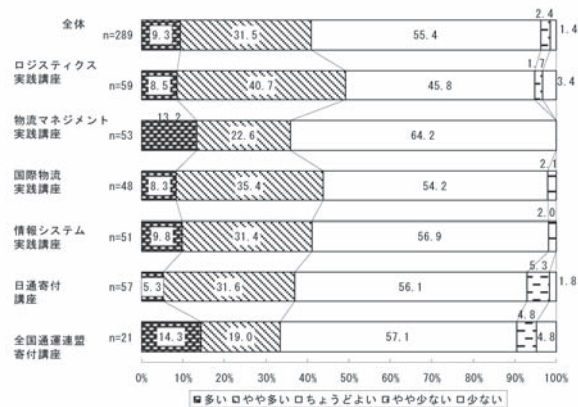
図表-7 授業の進み具合



授業内容の分量については、「ちょうどよい」という回答が55.4%と最も多いものの、「やや多い」、「多い」という回答も、あわせると4割を超えており、昨年度とほぼ同様の傾向となっている。特に、「ロジスティクス実践講座」では、「やや多い」、「多い」という回答が5割弱となっているほか、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」でも4割を超えている。一般の企業人向けの講義では分量が多いことが望まれる場合も多いが、学生では理解しきれない場合も発生している。前年度使用した資料に、内容を追加している場合も多く、全体的には分量が増える傾向にあり、1回の講義で使用するパワーポ

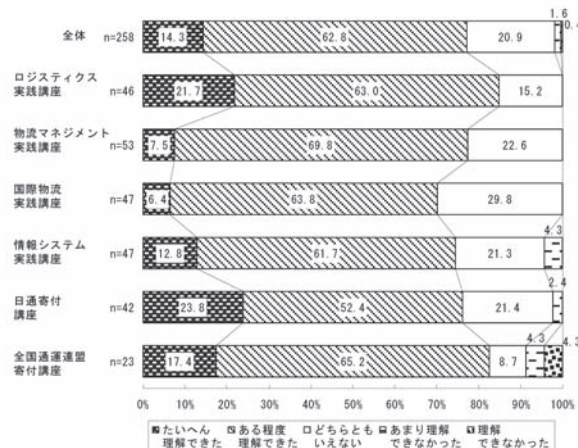
イントのシートが100枚を超える場合もある。多くの内容を紹介するより、要点に絞った説明にするよう、改善する必要がある。

図表－8 授業内容の分量



授業内容に対する理解度については、「ある程度理解できた」というのが、全体では62.8%と最も割合が高くなっている。どの科目においても、理解できたという比率はほぼ7割を超えている。学年別には、大きな差異がない。

図表－9 授業内容に対する理解度



重点事項の整理・確認などをして授業を進めたかということについては、「十分にしてくれた」、「ある程度してくれた」をあわせて78.3%となっている。ただし、「国際物流実践講座」、「全国通運連盟寄付講座」では、約65%と低い傾向にあり、留意する必要がある。

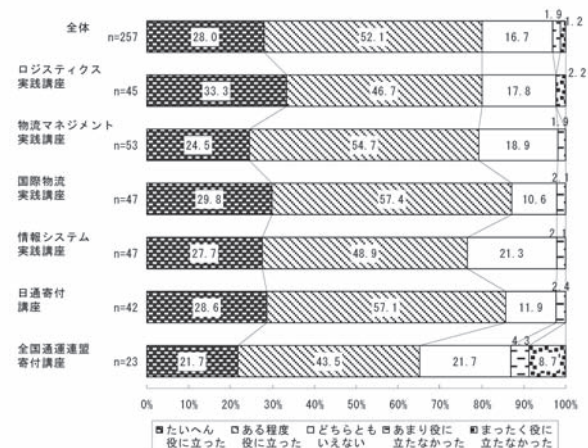
産学連携プログラム科目では、企業講師の授業に対する情熱を44.4%が「とても感じられた」と回答している。各科目別にみても、「ある程度感じられた」とあわせて約8割が授業に対する企業講師の情熱を感じている。企業現場での経験も含めて、学生に伝えようとする情熱が学生に伝わっていると考えられる。特に、留学生からは「感じられた」という意見が多くなっている。

履修しやすさ、授業の進め方については「特に問題はない」が81.3%と最も多い。「半期科目なので履修しにくい」が12.7%となっている。

3-3 産学連携プログラム科目のその他の評価

産学連携プログラム科目は、80.2%が他の講義科目の理解を深めるのに役立ったとしている。さらに「たいへん役に立った」も、28.0%となっている。このように産学連携プログラム科目は、その科目自体の評価が高いというだけでなく、他の講義科目等での理解を深めるのに役立っており、その相乗効果は非常に大きい。学年別には、2年生で特に役立ったとしているのが多く、85.5%となっている。また、留学生において、特に役立った

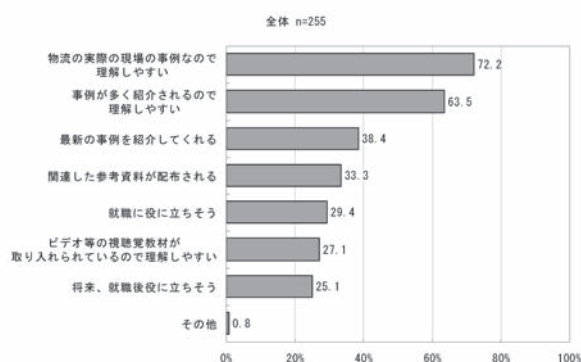
図表－10 他の講義科目の理解を深めるのに役立ったか



という回答が多くなっている。

産学連携プログラム科目の企業講師による講義の良い点は、「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」が72.2%、「事例が多く紹介されるので理解しやすい」が63.5%となっている。さらに、「最新の事例を紹介してくれる」、「関連した参考資料が配布される」と続いており、昨年度と全く同じ傾向にある。就職関連で役立つというよりは、理解しやすいということが特に評価されている。科目別にみると、いずれの科目も「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」が多くなっているが、「国際物流実践講座」では「事例が多く紹介されるので理解しやすい」という回答が最も多くなっている。また、「物流マネジメント実践講座」では、「ビデオ等の視聴覚教材が取り入れられているので理解しやすい」という回答が47.2%と多くなっている。

図表-11 講義の良い点（上位3つ）



以上、産学連携プログラム科目の対する学生の評価は、一昨年、昨年同様、極めて高いものであり、全体の満足度は82.5%であった。産学連携プログラム科目を通じて、ロジスティクスに関して興味を持ち、充実していたという回答が多くなっている。

本プログラムの目的の1つは、一般の講義

だけでは、ロジスティクスに関する知識の重要性が学生になかなか伝わらないことから、実際の事例をいれることによって実感として分かりやすくすることである。学生は、産学連携プログラム科目を、「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」、「事例が多く紹介されるので理解しやすい」という点で、特に高く評価しており、他の講義科目の理解を深めるのに役立ったとしている。今後も、一般の講義科目と連携して、実施していくことにより、教育効果をさらに高めることにつながると思われる。

このように、産学連携プログラム科目の内容は、適切性・有効性という面から、高く評価でき、今後も継続して実施していくことが重要と考える。

注1：2011年度の産学連携プログラムの内容については、「2011年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施状況について」物流問題研究 No57、21～26頁 (http://www.rku.ac.jp/distribution/doc/distribution04_05.pdf) を参照されたい。各科目の毎回のテーマ、講師について掲載してある。

注2：2010年度の産学連携プログラム科目に対する学生の評価については、「2010年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施結果について」物流問題研究 No56、22～26頁 (http://www.rku.ac.jp/distribution/doc/distribution03_05.pdf) を参考にされたい。

注3：「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」を実施するに当たり、業界団体、企業、教員の委員で構成される「ロジスティクス産学連携コンソーシアム」が設置されている。